

公式マスコットキャラクター トウクトウク



プロフィール

はるか宇宙の彼方から、地球に憧れてやってきた好奇心いっぱいの精霊、それがトウクトウクです。植物をはじめとした、この宇宙に生まれた万物の気持ちに共鳴しているので、その想いを人間に伝えてくれます。地球がきれいだとうれしくなって花を咲かせて踊ったり、地球が汚れると悲しくなって元気がなくなったりします。自然破壊・環境汚染などさまざまな課題を抱えているこの星で、人間と自然をつなぐ決意をしたキャラクターです。

トウクトウクの
詳細はこちら！



開催概要

国際園芸博覧会は、国際園芸協会(AIPH)の承認および博覧会国際事務局(BIE)の認定を受けて開催される最上位のA1クラスの国際博覧会です。

名称

2027年国際園芸博覧会
Japan Association for the International Horticultural Expo 2027, Yokohama

正式略称

GREEN×EXPO 2027

テーマ

幸せを創る明日の風景 - Scenery of the Future for Happiness -

参加者数

1,500万人 (ICT活用や地域連携などの多様な参加形態を含む)
(有料来場者数: 1,000万人以上)

開催地

神奈川県横浜市

開催者

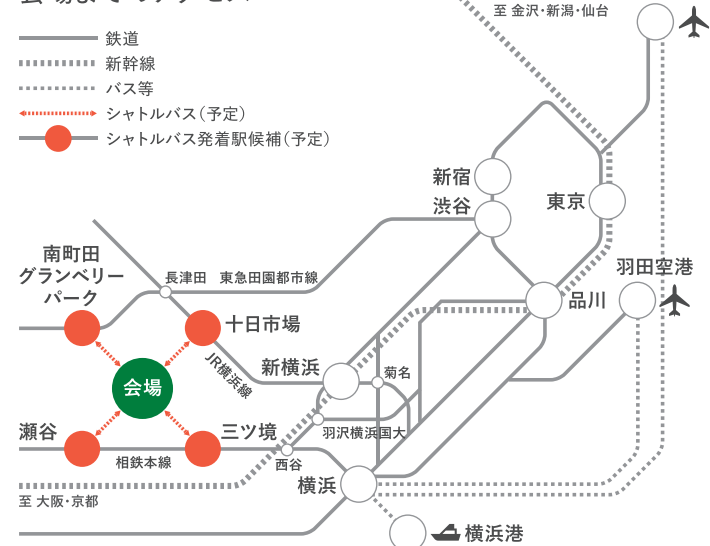
公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

開催期間

2027年3月19日(金曜日)～
2027年9月26日(日曜日)

Information

会場までのアクセス



開催者

公益社団法人
2027年国際園芸博覧会協会

開催場所

旧上瀬谷通信施設
(横浜市瀬谷区・旭区)

博覧会区域

約100ha(会場区域80ha)

詳細は
公式WEBサイトへ



GREEN × EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

2027.3.19[FRI] ▶▶ 9.26[SUN] 横浜(上瀬谷)

「幸せを創る明日の風景」をテーマに、地球課題解決にみなさんとチャレンジしていくEXPO

テーマ

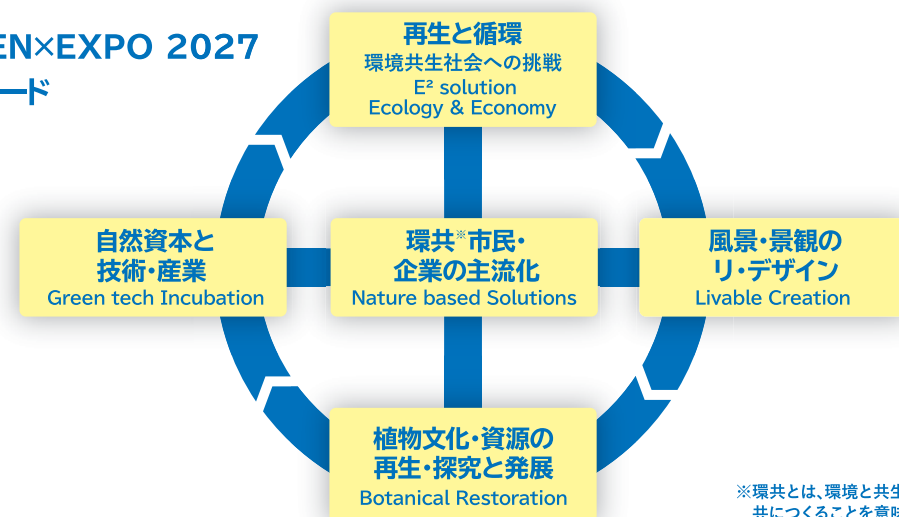
GREEN × EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

幸せを創る明日の風景

Scenery of the Future for Happiness

GREEN×EXPO 2027のテーマは「幸せを創る明日の風景」です。昨今、世界の多くの人々が、プラネタリー・バウンダリー(地球の限界)を意識し、これからの私たちの幸せな生き方を模索し始めています。そこで基本となるのは、Nature-based Solutions=自然を活用した解決策、という考え方。私たちが生きる地球環境の基盤である自然、植物への理解を深め、私たちもその一部として、共に明日へと生きていくための方法論です。自然・人・社会が「共に持続するための最適解」を横浜(上瀬谷)の約100haの開催地で描きます。

GREEN×EXPO 2027
キーワード

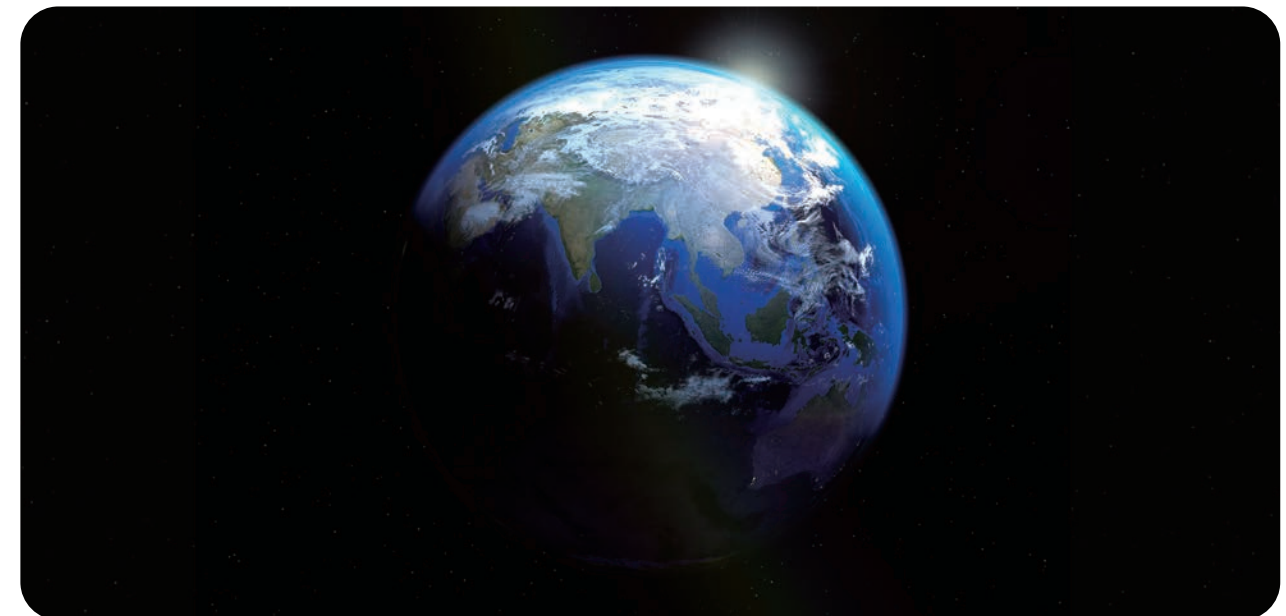


※環境共生とは、環境と共生し、市民の皆様と
共につくることを意味します

背景

地球が直面する危機がもたらす私たちの暮らしへの影響

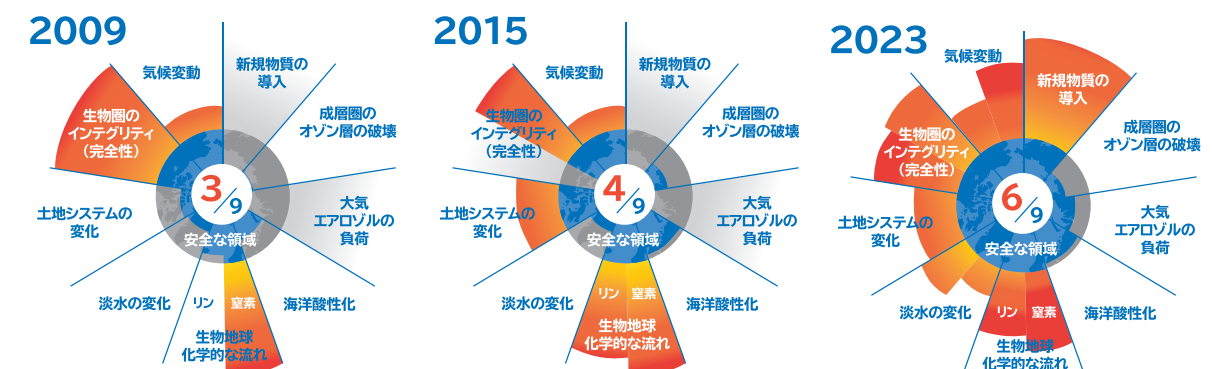
プラネタリー・バウンダリー (地球の限界)



地球のSOS、それは、私たちの暮らしのSOS。

これからの暮らし、暮らす街、環境のあり方は大きな転換点。

地球温暖化、生物多様性の喪失、自然災害の増大、海洋の酸性化…など、地球上で、私たちが暮らしていくために必要な9つのカテゴリの内、6つのカテゴリで既にその限界値を超えてしまっています。



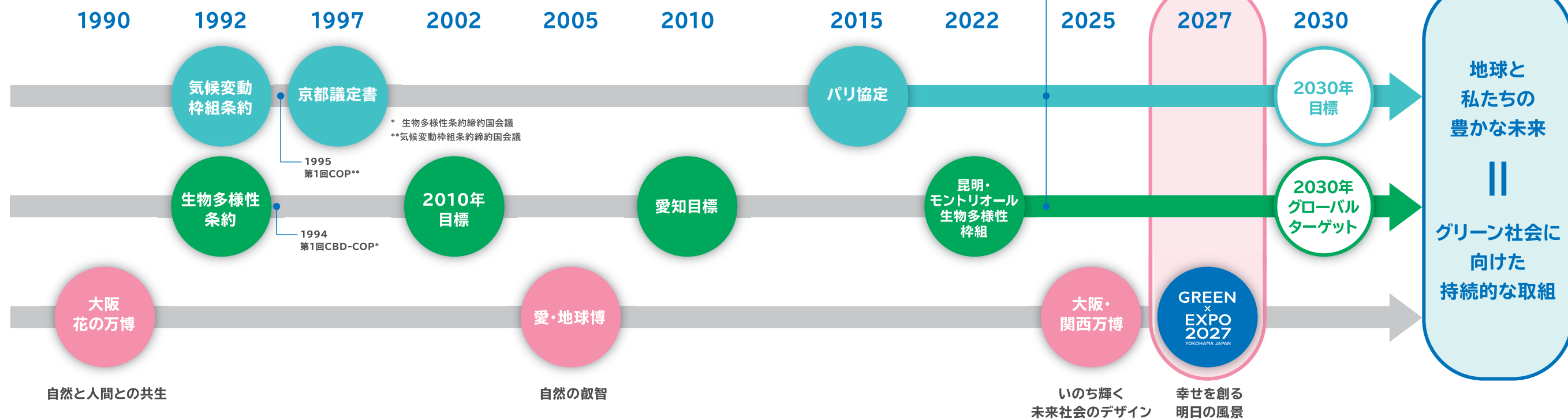
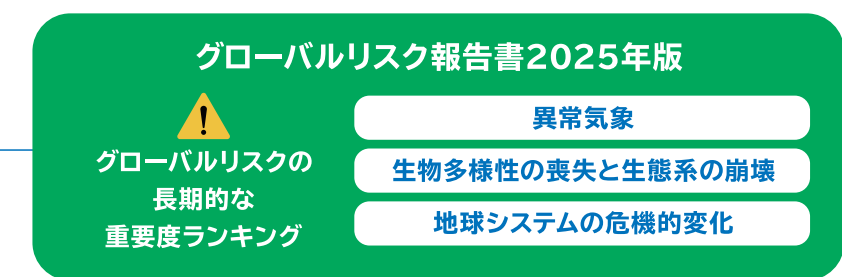
約15年で限界値を超えたカテゴリ数は2倍

グローバルターゲットとなる2030年に向けて、未来の豊かな地球環境や私たちの暮らしを考え、自然・人・社会が「共に持続するための最適解」自然資本をベースとした新たなグリーン社会の姿をGREEN×EXPOで世界に発信していきます。

プラネタリー・バウンダリー(地球の限界)が叫ばれる現代、今後の人類の生活に大きな影響を及ぼす問題が、気候変動と生物多様性の損失です。これらの問題は相互に関連し、1992年に採択された関連条約は双子と例えられるほどです。これまでの国際的な議論によって取組が加速し、2015年のパリ協定、2022年の昆明・モントリオール生物多様性枠組が採択されるに至り、現在、世界

各国が、それぞれの2030年の目標に向けて、取組を進めています。この流れの中で、日本で開催された二つの博覧会が、重要な役割を果たしています。1990年の大阪花の万博は、1992年条約採択の2年前に「自然と人間の共生」の考えを世界に示しました。2005年の愛・地球博は、「自然の叡智」というテーマを追求し、自然共生の重要性を社会に浸透する上で、大きな役割を果たしました。

このように、これまで日本で開催された博覧会は、国際的な議論の先駆けとして、地球規模の課題解決に向けたアクションを促してきました。



国際博覧会で新たな社会づくりを提唱してきた日本



大阪：花の万博
(国際花と緑の博覧会)

“自然と人間との共生”

環境問題に対する世界への警鐘を鳴らし、自然と共生する近未来の都市像を考える機会に

1990年

1992年の地球サミット「環境と開発に関する国際連合会議 (UNCED)」における、「気候変動枠組条約」や「生物多様性条約」に先駆け、「自然と人間との共生」の理念を世界に示した。また、1997年の京都議定書 (COP3) において、日本が環境問題でリーダーシップを発揮し、温室効果ガス削減の国際的な枠組みを提案。その先見性と普遍性においても意義深い国際園芸博覧会であった。



2005年

愛知：愛・地球博
(2005年日本国際博覧会)

“自然の叡智”

地球規模の課題解決、市民参加を提唱。環境破壊の抑制に向けて世界が動くきっかけに

環境問題を中心に据えた初の本格的な国際博覧会として、世界へ影響を与えることになった。2010年に地球規模での劣化が危惧されている、生物多様性における「生物多様性戦略計画 2011-2020及び愛知目標」、愛・地球博で示された「持続可能な技術」は、その後の世界的な持続可能な社会への転換、自然保護の枠組みの形成に貢献した。

日本・横浜・上瀬谷だからこそ、GREEN×EXPO 2027の開催意義は大きく、 環共企業・環共市民が主役の新しい時代を創りだしていけると考えます。

日 本

古来、自然との共生の中で循環型の社会を営んできた日本。
世界に対して、今、伝えるべきことがあります。



日本は、その地理的特性により、四季の変化に富んだ気候の下、世界有数の豊かな植生に恵まれる一方、自然の猛威にも常にさらされてきました。

このような風土で、日本人は、身の周りにある自然を敬い、畏怖すると同時に、自然の豊かな恵みを享受してきました。

山岳や奥地は、人の踏み入れるべきではない自然の領域として信仰の対象にもする一方、人里近くの山には、適度に人が介入する里山という独特の二次的自然を生み出し、維持してきました。平地では、自然の地形を生かした開墾が行われ、ときに荒ぶる自然をいなしながら、人が自然を搾取しない持続可能な暮らしを営んできました。建築物や工芸品にも、木や竹、紙や漆などの植物由来の資源が多く使われてきました。

自然と深く関わりつながってきた日本で、花鳥風月を愛でる文化が育まれてきました。江戸期には、園芸文化が高度に発達し、庶民も思い思いの鉢植えを楽しんでいました。この様子は、開国後に日本を訪れた西洋のプラントハンター達を驚かせました。

自然と人とを一体のものと捉え、自然との共生により循環型の社会経済を成り立たせてきた日本。その日本の自然観は、いまでも私たち日本人の中に息づいています。

こうした日本の持つ自然との共生の考え方は、人間の活動が地球環境の限界を超えつつある今日、再評価され、世界に向けて発信していくべき意義があります。

横 浜

日本と世界を結ぶゲートウェイ横浜。市民力あふれる横浜。
だからこそ担うべき役割があります。



横浜は、開国以来、常に、日本と海外をつなぐゲートウェイでした。西洋の近代文明が、横浜から日本に受け入れられていくとともに、その逆に、日本の豊かな植物や産物が横浜から海外へと広がっていきました。

そして、横浜のもう一つの大きな資産は、市民力。公園愛護会など、コミュニティレベルでの活動を行う様々な団体やグループが活発であり、市民が積極的に地域づくりに参画しています。

このような横浜には、日本から世界に向けてメッセージを届ける役割があり、市民と共に実現する力があります。

上 瀬 谷

長らく軍事施設であった上瀬谷。友好と平和の象徴として、
自然の原風景が残る土地として、届けたい想いがあります。



神奈川新聞社提供、複製禁止

この地は、戦後長らく、米軍の管理下にあり、厳しい土地利用制限が課せられてきましたが、2015年に返還されました。悲しい歴史を乗り越えて返還されたこの大地に、花・緑いっぱい会場を設え、「幸せを創る明日の風景」に向けて発信することは、平和の象徴であり、自然・人・社会が共に持続する社会を希求する市民の想いの象徴でもあります。

GREEN×EXPO 2027で目指すのは、グリーン社会の実現に向けた環境意識・行動変容。
そのために、GREENの力と産業活動を掛け合わせたグリーン社会の姿、プロセスを提示し
企業・来場者の皆様と共に具体的アクションを起こしていきます。



一人一人が、当たり前、地球環境や自然・植物と共生する意識を持ち、行動していく世界へ。
市民や企業の意識・行動におけるネイチャー ベースドソリューション(NbS)の主流化

本博覧会で着目するGREEN

自然が有する回復力
環境保全、持続可能性に貢献する

自然資本と技術を活かした社会課題の解決
グリーントランスフォーメーションとSDGsを実現する

これからの農と食
農と食の未来を支える、生物多様性(種の多様性)の維持と共生に着目する

植物・自然がもたらす豊かな感性
心身のバランスを整え、人の心を和ませ疲れを癒す



産業活動

地球環境・生態系と共生するライフスタイル創造

業界・企業のイノベーション新産業創生

グリーン社会実現に向けた投資・支援(CSR/CSV/ESG)

GREEN×EXPO 2027で掲げるテーマは、企業活動にとっても今後避けては通れないグローバルなテーマ。日本の企業として具体的なアクションと共に、世界をリードし存在感を発揮する絶好の機会です。

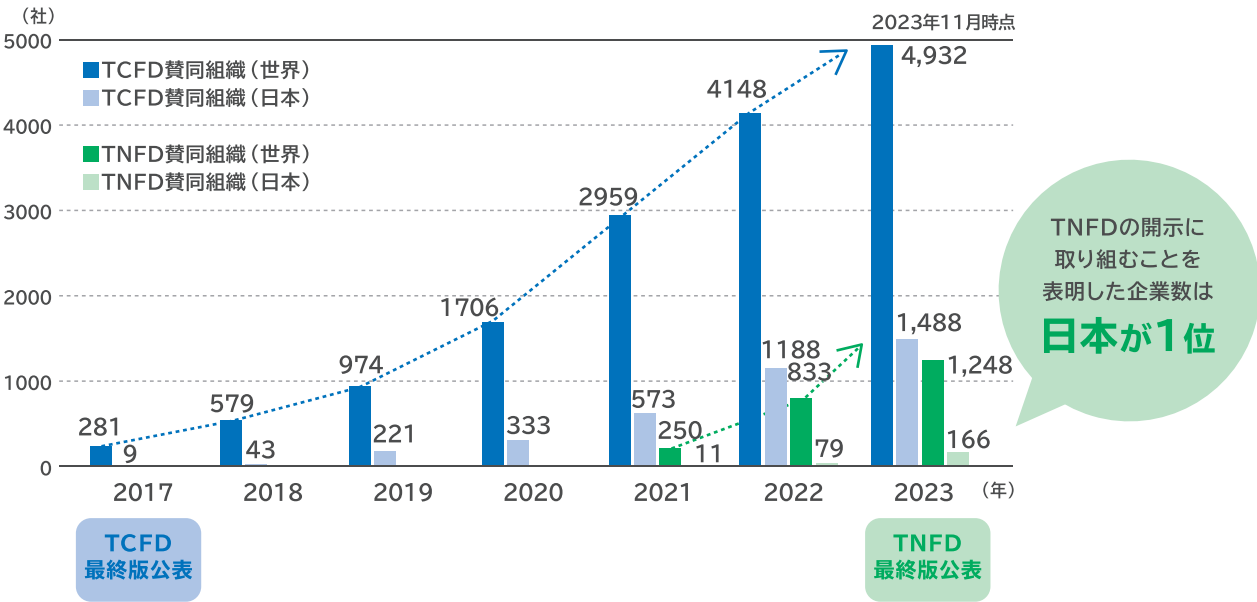
■企業が注目するTCFDとTNFD

日本政府も開示を推進し、国内の様々な企業が注目するTCFD、TNFDにも通ずるGREEN×EXPO 2027

項目	TCFD 気候関連財務情報開示タスクフォース	TNFD 自然関連財務情報開示タスクフォース
国際政策目標	パリ協定	昆明・モントリオール生物多様性枠組
対象	気候変動	気候変動+自然資本
開示項目	ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標	ガバナンス、戦略、リスクとインパクト、目標設定
開示の目的	企業・投資家・金融市場における気候関連リスク・機会の認識を高め、適切な資本配分を促すこと 投資家・金融機関への情報提供	企業・投資家が生物多様性を考慮した経営・投資を行い、持続可能な社会の実現を促進するための枠組み
主な影響	気候変動による財務リスクの開示	自然環境への依存関係・影響の開示、自然資本へのポジティブ・ネガティブな影響の管理

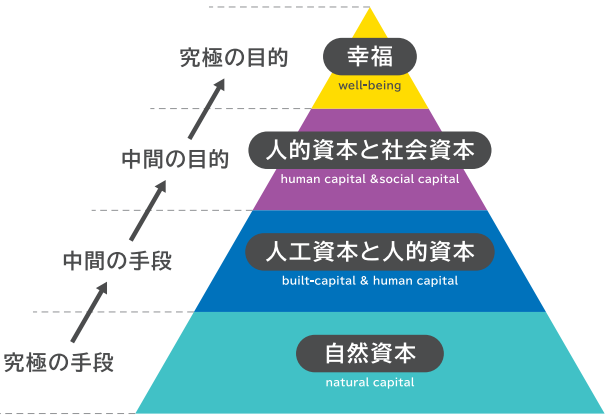
※気候関連財務情報開示タスクフォース，気候関連財務情報開示タスクフォースによる提言（最終版），自然関連財務情報開示タスクフォースの提言などを基に2027年国際園芸博覧会協会で作成

■TCFD・TNFDの加盟・賛同団体数の変遷



GREEN×EXPO 2027にご参加いただくことは、自社の企業価値・ブランドの向上やサステナビリティ経営をする企業としての評価を高め、ビジネス成長や新たなビジネス創出につなげていただく機会となります。

ハーマン・デイリーのピラミッド



- ▶ 1970年代に、米国の環境経済学者であるハーマン・デイリーが提唱
- ▶ 人間がWell-Beingになるための経済として自然資本、人的資本、社会資本の三層の資本の関係を示す
- ▶ 現在のサステナビリティの定義の根源をなしている

(出所) Revi, Armar "Indicators and information systems for sustainable development" (1998)を基にMURC作成

経済は常に自然資本に依存すると考えられる中で、GREEN×EXPO 2027で持続可能な未来のビジョンを発信していく意義は大きい。

■ESG投資



世界的なテーマであるTCFD、TNFD。中でも、TNFDはどの国よりも早く日本企業からの関心が集まる中で、GREEN×EXPO 2027は、世界中の多様な企業が関わることを目指しています。

環境問題、労働問題、人権問題、ガバナンス上の問題など、社会が抱えている課題に取り組む企業こそがサステナビリティ(持続可能性)があり、中長期的に成長していく企業だという考え方が投資家の潮流となっています。

会場のリアルな場で、国内外1,000万人の来場者に グリーン社会に向けた技術・アクションを様々な形でプレゼンテーションしていただけるのが GREEN×EXPO 2027です。

花と緑の風景だけではない、これからの社会・暮らしを 全員で考え、体験、共有しあうことが本EXPOの目標です。

GREEN × EXPO ↓ GREEN Action EXPO

GREEN×EXPOの X には、いろいろな思いを込めています。様々な産業がグリーン社会の実現に向けて、技術やアクションを持ち寄って参加いただくEXPOです。参加する企業のみならず、共に考え、共に創る。そして、「幸せを創る明日の風景」の実現を目指していきます。

生態系・自然環境 Botanical Restoration

自然の仕組みを活かすバイオミクリー(生物模倣)技術/バイオテクノロジー/グリーンテクノロジー/ホーティカルチャーサイエンス



再生可能エネルギー Renewable Energy

2050年までの脱炭素化実現/水素等次世代エネルギー活用拡大/CCU技術/次世代太陽電池(ペロブスカイト)/バイオ燃料の地産地消



まちづくり・建築・交通 City Management

木造建築・空間木質化/緑化/CO2見える化/PV設置拡大/ZEB・ZEH/グリーンインフラ/EV利用促進/水素燃料活用/シェアサイクル



健康・食と農 Health & Food

スマート農業/フードテック/国産国産/食品ロス削減/バイオマス/農福連携/パーソナライズ食品/ボタニカル製品/製薬/ヘルステック



技術・産業 Nature-based Technology

生分解性プラスチック/グリーンテクノロジー・人工光合成/バイオミクリー(生物模倣)/バイオフィリックデザイン/バイオマテリアル



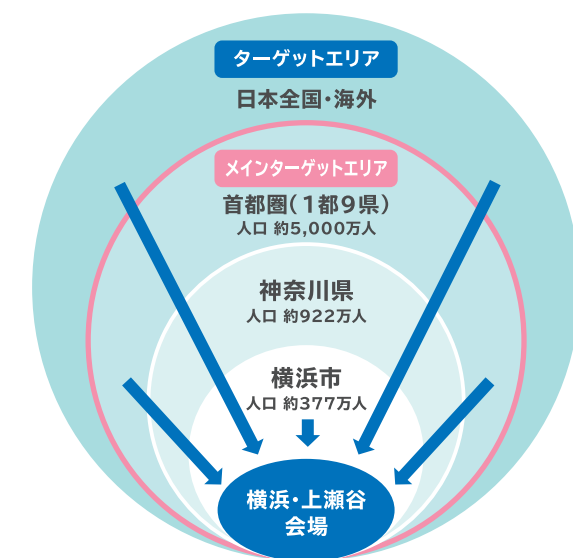
くらし Lifestyle

サーキュラエコノミー/マテリアルアップサイクル/脱プラスチック・脱炭素行動/リユース食器/マイボトル・マイカトラリー/環境学習



GREEN×EXPO 2027の 想定来場者数・構成

会場は羽田空港・成田空港や新横浜駅といった公共交通機関の主要拠点からのアクセスが良好です。また、首都圏 人口約5,000万人をメインターゲットとし、1都3県初開催の国際博覧会はイベントとしての注目度も高いです。さらに国内主要テーマパークの月平均来場者数と遜色ない来場者数を見込みます。



施設別来場者数の比較

施設名称	6ヶ月間(万人)	月平均(万人)
GREEN×EXPO 2027 ※6か月間のみ	1,000	167
施設名称	年間(万人)	月平均(万人)
ユニバーサルスタジオ・ジャパン(2023年度)	1,600	133
東京ディズニーリゾート(2023年度)	2,750	229
東京ビッグサイト(2024年度)	1,400	117

来場者のコアターゲット

環境関心層	園芸関心層／観光	子ども・教育
- 環境関連のビジネスパーソン - 学術研究者 - SDGsなど社会課題への問題意識が高い層	- 花卉・園芸・造園の専門家・愛好家 - アウトドア・自然・食の関心層 - 観光客・訪日旅行者	- 首都圏の保育園・幼稚園・学校の遠足・課外授業 - 修学旅行(中学・高校) - 休日のファミリー層

多様な方々に興味を持ってもらうイベントとしていきます。

GREEN×EXPO 2027は、グリーン社会実現のための通過点。
開催前から積極的に企業・市民の皆様にもご参画いただき、開催後も様々な形で継承され、
新たな社会づくりに貢献し、ご参画の企業様のブランド向上や事業成長に資するEXPOを目指します。



●日本・横浜開催だからこそできる
グリーン社会の世界発信

●グリーン社会は日本が世界を
リードしていくテーマ

●どの企業も多様な形で
参加できるコンテンツ

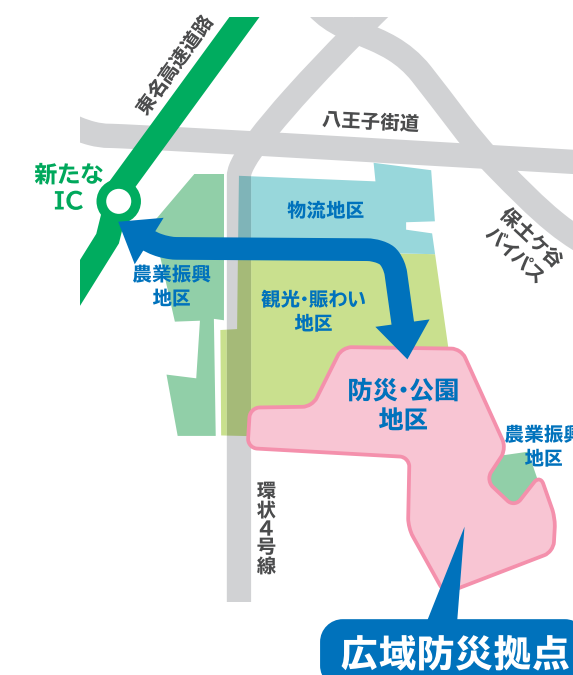
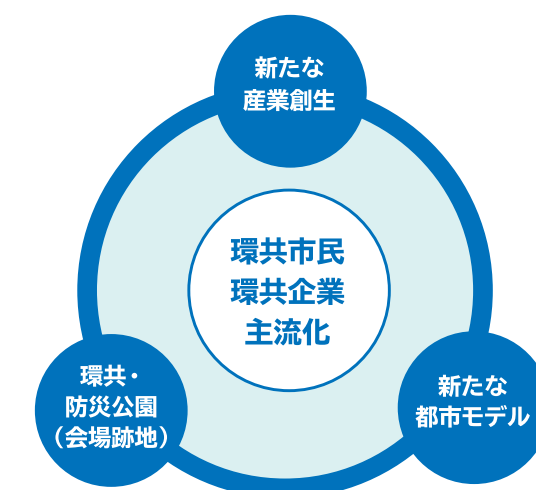
●産官学民、70の参加国・機関、
来場者1,000万人、みんなで
共に意識・行動変容に向けて共に創る

●開催して終わりではない将来の
街づくりにつながる

GREEN×EXPO 20 27



グリーン社会の実現へ



**EXPO開催後の跡地は
横浜初の「広域防災拠点」に
生まれ変わります**

横浜・上瀬谷 約100ヘクタールの広大な土地に、 より多くの企業の皆様にご参画いただけるよう、多様な施設や 共創エリアとしてVillageを設置し、私たちの明日を創るグリーン社会の風景を共に描きます。

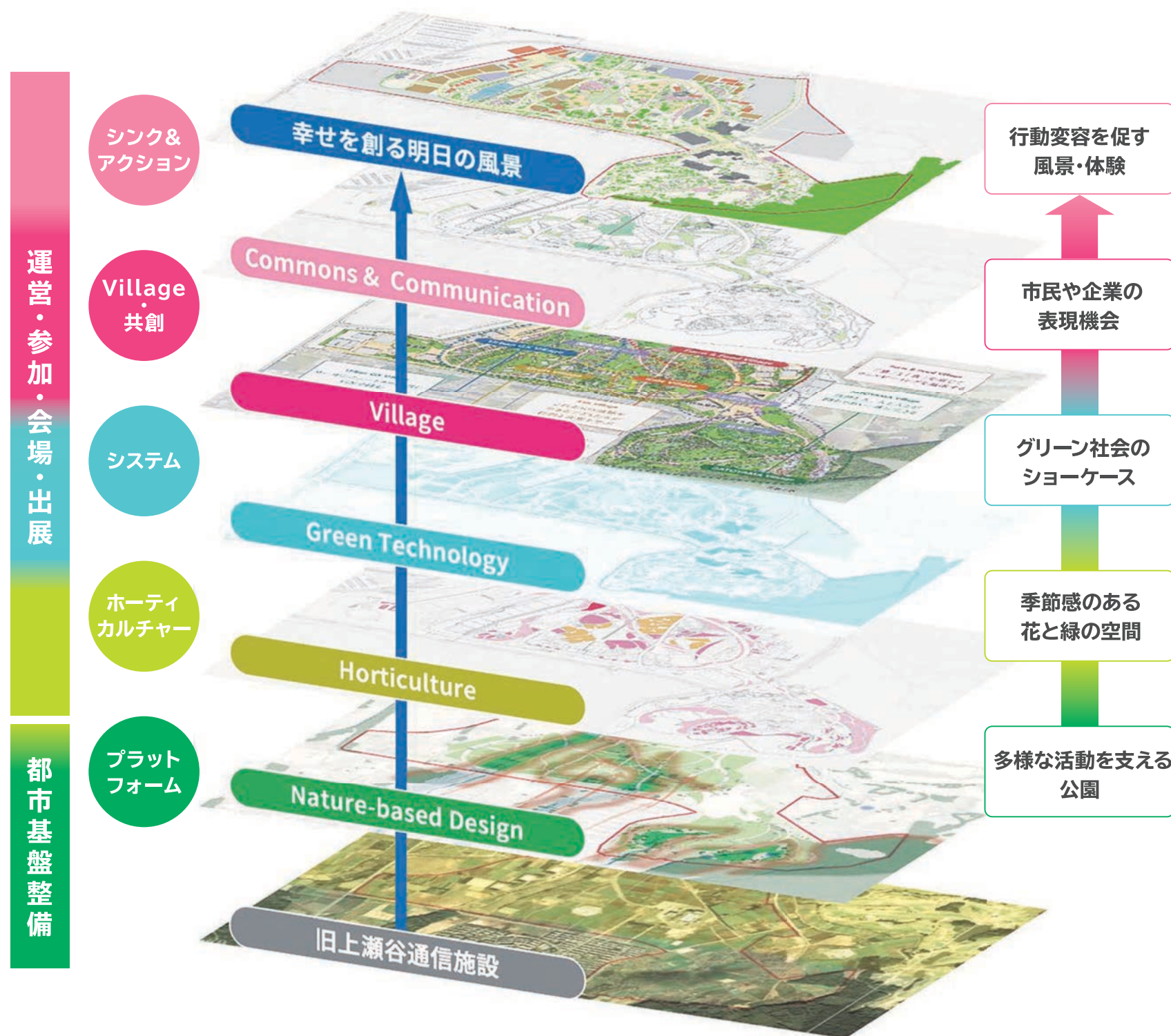
- A 東急グループ
- B 株式会社 KTグループ
- C NTT東日本株式会社
- D 株式会社 大林組
- E 三菱国際園芸博覧会総合委員会
- F 鹿島建設 株式会社
- G 大和ハウス工業 株式会社
- H 東邦レオ 株式会社
- I 竹中グループ
- J 住友林業 株式会社
- K 相鉄ホールディングス 株式会社
- L 清水建設 株式会社
- M 三光ソフランホールディングス 株式会社
- N JAグループ
- O 株式会社 丸兆
- P 明治グループ
- Q 山崎製パン 株式会社



企業と共創して 一つの風景を創る 5つのVillage



グリーン社会を実現するための基盤づくりを行い、より多くの企業の皆様が、
多様な形で「幸せを創る明日の風景」の共創に向けてご参画いただける会場となっています。



Commons & Communication

参加者と来場者が、様々な催事や体験を通じて交流し、環境に対する新たな気づきを得て、意識・行動変容につながる場所と機会をつくります。環境と共に生きる活動への参加者が「環共市民」となり、EXPO後に継承されます。



Village

世界が直面する課題解決へのチャレンジの場です。市民、企業が共創する舞台である5つのVillageで、新たな体験と、カーボンニュートラルとネイチャーポジティブへの理解を深める機会をつくります。



Green Technology

2030年とその先を見据えて、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブを実現する技術革新へのチャレンジの舞台に。会場を技術革新に向けた社会実験フィールドに会場体験のなかで、持続可能な暮らし、社会、環境を支える未来技術を発信します。



Horticulture

最上位(A1)クラスの国際園芸博覧会に相応しい圧倒的な花と緑の風景を創造するとともに園芸や園芸文化によって支え続けられてきた私たちの暮らしの風景についての気づき、体験を含めて提供していきます。



Nature-based Design

計画地の環境、上瀬谷の風、水、緑を読み解き、尾根地形や、南北方向の水の流れ、風の動き、残された樹林等の自然資本を活かした会場づくりを進めます。

上瀬谷の自然溢れる大地の上に、産官学、市民、来場者が、会場での様々な活動に参加することで、「幸せを創る明日の風景」を共創します。

GREEN×EXPO 2027のテーマ理解を 深めていただきます。

◆協会・政府提供施設

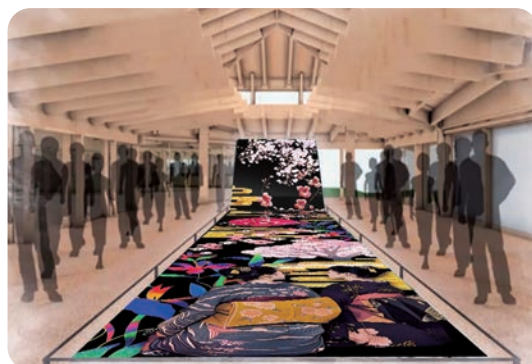
テーマ館



すべての生命はつながっている。植物を中心に。

カーボンニュートラルとネイチャーポジティブの基盤としての自然資本。その中心にいるのは植物です。
植物なしでは、私たち人類は、自らの生存空間すら確保できません。プラネタリー・バウンダリーが叫ばれる今、地球を支える“命の根源”である植物の、その真の姿を知ること、私たちも地球環境の一部として、いかに生きていくかを問いかけ、来場者と共に考えます。

園芸文化展示



江戸時代を中心とした日本の園芸文化の神髄を表現。

日本人が自然とともに親しんできた園芸文化。江戸期には、日本の園芸文化は世界最高水準に発達しました。園芸文化展示では、江戸時代を中心とした日本の園芸文化の神髄を表現します。また屋外には、江戸時代の植木屋・花屋敷を再現。春分から始まり、晩春・初夏・盛夏・初秋と植物を入れ替え、日本の園芸文化の水準の高さや自然観、季節感を体感いただけます。

政府出展



日本の自然観を再考し、未来へ進む。

政府出展が位置するのは、横浜市内を流れる和泉川の流頭部。この貴重な自然環境を引き継いでいくため、流頭部の自然環境を読み解き、既存の樹木や在来植物を活用し、屋外展示では美しい風景としての「令和日本の庭」をつくりあげます。また、屋内展示ではプラネタリー・バウンダリーといった地球規模の課題について、“みどり”で解決する可能性を体感・共感し、来場者が考え、ひとりひとりが取り得る行動への一歩を提案します。

国土交通省・農林水産省提供

様々な形で企業の皆様に参画いただける 協賛メニューを用意しています。

◆募集中の参画メニュー

※2025年3月現在

協賛

プロジェクト協賛

企業との対話により博覧会のコンテンツを共創する協賛

(1) 博覧会の理念実現に資するもの

地球課題の解決に向けた体験・実践を通じて、意識・行動変容を促すことを目的としたGREEN×EXPO 2027を具現化する取組として、特にカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブ等に関連する多様な活動を求めます。

(3) 協会が実施する事業の

魅力向上に資するもの

協会が実施する展示・催事等の魅力を向上させるため、展示・催事体験の創出、賑わい創造の向上に関連する取組を求めます。

(2) 博覧会への機運を高め、参加を促進するもの (会期中の来場を含む)

博覧会の認知度を高め、機運を醸成するとともに、会期前から多様な主体の参加を促進する取組を求めます。

(4) 博覧会の安全性・快適性向上に 資するもの

博覧会への来場から、場内での体験に至るまで、来場者が安全で安心し、快適に過ごせるような取組を求めます。

一般協賛

博覧会に必要な物品・役務をご提供いただく協賛

協賛については
右記のQRからも
ご覧いただけます



その他の参加

営業参加

一般営業出店

場内輸送・モビリティ運営

観覧施設運営

催事参加

一般催事参加

テーマ催事参加

海外出展協力

寄付金・人材支援ほか

寄付金

人材支援

来場参加

ライセンス商品の
製造・販売

すでに多くの企業・市民の皆様はGREEN×EXPO
より多くの参加者と共に創り、未来へ継承される
開催前から開催後まで、様々な形でビジネスチャ

2027への参画・応援を表明していただいています。
EXPOとして、
ンスが広がるEXPOを実現していきます。

◆GREEN×EXPO 2027開催に向けて応援の輪を広げる「Blooming RING Action」

新プロジェクト「Blooming RING Action」を始動。
発表会には公式アンバサダーの芦田愛菜さんも出席いただきました。



GREEN×EXPO 2027 公式アンバサダー 芦田愛菜さん

GREEN×EXPO 2027をPRするイベント会場等、様々な場所で配布を行い
市民の皆様からの応援の輪を拡大していきます。



◆開催2年前記者発表会

既に、多数の企業・団体・個人、自治体が出展
を表明!「Village出展」「花・緑出展」「テーマ
営業出店」への内定者は合計377件に!



2年前発表会に参加された内定者一同(2025年3月19日)

◆GREEN×EXPO 2027初の オフィシャルストアオープン

東京・横浜の2店舗を同時にオープン
日本全国へオフィシャルストアを順次展開していきます。



EXPO 2027 オフィシャルストア「丸善 丸の内店」販売中の公式ライセン



ス商品の例

◆シティドレッシング

GREEN×EXPO 2027の開催に向けた
皆様の盛り上げりを、駅構内や電車内などで彩っていきます。



ぜひ、これを機会にGREEN×EXPO 2027への参画・協賛をご検討ください。